

# まえみや

## 社会協議会

創刊号  
平成4年3月31日  
各務原市社会福祉協議会  
前宮支部  
題字：各務原市長 平野 喜八郎



### 創刊号発行にあたつて

各務原市長

平野 喜八郎

三月三日晚降り続いた大雨で、木曽川が荒れ狂つた翌朝、村人たちはふらした場所に小屋が建てられ、見知らぬじいさんが一人、鍬で荒れ地を耕しています。じいさんは「甚六といふもんや」と言つたまゝ、「どこから来たとも、なぜこんな石ころだらけの荒れ地を耕すのかも答へず、ただ、にこにこ笑つてゐるばかりでした。じいさんは働き者で、二日で畑を、七日で田をつくり、いもやとうもろこしや米を作り、村に持つて来ては、食べ物に困つてゐる人に分けてやりました。村はじいさんのおかげで豊かになり、いつしか村人は、じいさんのことを、「神様のお使い」というようになりました。

何年かたつたある日、庄屋さんがじいさんのところへ相談にいきます。いつまでも頼つてばかりはいられない、知恵を借りたいといつたのです。じいさんは「あした、おんさい」と言います。その晩は何年ぶりかの嵐になりました。木曽川は久しぶりに、大荒れに荒れました。

次の日、村人たちはびっくり仰天。滔々と流れていた川がすうと南のほうを流れおり、目の前の川の跡には、開墾すれば田畑になりそうな広大な土地があつたのです。

「やつぱり、神様のお使いやつた。」それから村人たちは、甚六じいさんを見習つて、一生懸命耕しました。村は村人自身の力でだんだんと裕福になりました。そして、いつしかその土地のことを甚六屋敷と呼ぶようになつたということです。めでたしめでたし。

稻羽の山脇に伝わる昔話『甚六屋敷』です。大昔から、木曽川という自然と戦

い、豊かになるために知恵をしづり、精一杯生き抜いてきた私たちの祖先の鍬の音が聞こえてきそうなお話です。

甚六じいさんは村人に何を伝えたかったのでしょうか。どんな荒れ地でも、がんばつて耕せば必ず実りがあるということを教えたかったのでしょうか。嵐の後の広大な土地は、神様のプレゼントだったのでしょうか。

私はこの物語を持ち出して、みなさんに教訓めいたことを申し上げるつもりはありません。複雑でまことに変化する現代社会にくらべて民話の世界はあまりにも素朴すぎます。ただ、この物語を生み出し、語り継いできた祖先の魂の響きに耳を傾けてみたいのです。

甚六じいさんは、本当に、水神様のお使いだったのでしょうか。自ら困難に立ち向かい、村人たちに生き抜く勇気を与えた甚六じいさん……。それは、正直で働き者の村人自身の象徴、もしかすると山脇村から生れた偉大な指導者のひとりだったのかも知れません。

21世紀はもうすぐそこまで来ています。超高齢化社会の訪れを前に、眞の福祉都市各務原を築いていくため、今、甚六じいさんたちの知恵と力が必要なのです。

甚六じいさんの子孫である私たちが、過去といふ甚六じいさんの肥沃な土地を耕し、そこから未来の土壤を育てていきたいものです。

社協だより「まえみや」の創刊をお祝い申しあげます。ともに心を合わせ、未来に向けて前進していくではありませんか。さあ、新しい物語の始まりです。

### まちぐるみ展示手本 心と手と心で福祉の輪

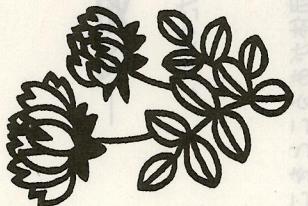
一年を  
ふりかえつて

各務原市社会福祉協議会  
前宮支部長 足立松夫

社会福祉協議会「前宮支部だより」創刊号発行にあたり、「一言下さい」を申し上げます。日頃は、社協活動にはあたたかいご指導、ご理解、ご協力を賜り深く感謝申し上げます。また、前宮支部におきましては、今後多くの福祉問題に取り組んで進むのが、私たちの立場ではないかと思っています。まず第一にここ前宮支部でも年々高齢化が進みつつあり、ねたきり老人の増加による介護等の問題だけでなく、青少年の非行化の問題やそれに社会を担う社会人のモラル低下もめざましい今日この頃です。こうした時代を明るく住みよいまちづくりに社協前宮支部では、今後とも努力していくかなければならないと感じています。

今年度は、昨年1月21日に近隣ケアの介護講習も実施し、ボランティアの皆さん多くの参加も得られ、有意義な一日を過ごされたことと思ひます。

また、今後とも地域に根ざした支部の社会福祉協議会として明るい平和な前寄づくりを目指して前進することを願い、おわりに皆様方のおしゃあわせを祈念申し上げましてあいさついたします。



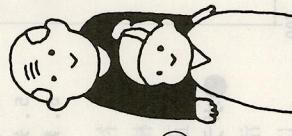
#### ■世帯数 1,081世帯



■1世帯人員  
3.97人

#### 数字で見る前宮

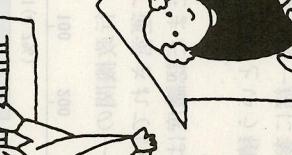
■老人人口  
(65歳以上)  
485人  
(人口の11.3%)



(資料提供：各務原市企画調整課 / 福祉課 H3.10.1)

■人口  
4,290人  
(男女 2,089人)  
(男女 2,201人)

■1人暮らし老人  
12人  
(老人人口の2.5%)



# 平成3年度 支部社協活動をふりかえって



## 10月10日 市民運動会

「行つた 見た やつた 勝つた」楽しい一日を過しました。



## 11月21日 介護講習会

「いい勉強が出来ました」「早速実践します」

「参加してよかったです」等の声が…。

# 住民意識調査まとまる

## —自分の健康や老後に不安??—

昨年7月に行いました「福祉のまちづくりのための住民意識調査」の結果がまとまりましたので、その中から主だった設問を抜粋し、一部掲載します。(回答数=878通)

### ●町内活動に参加程度について

積極的に参加している(13.2%)、人並みに参加している(74.8%)

と町内活動への参加は非常に高い。

### ●あなたにとって、現在、またはこれから暮らしの中で、何か気がかりなことや不安なことがありますか？

1. 子供のこと  
84(6.2%)

2. 親のこと  
89(6.6%)

3. 自分の仕事のこと  
279(20.6%)

4. 自分の健康のこと  
308(22.7%)

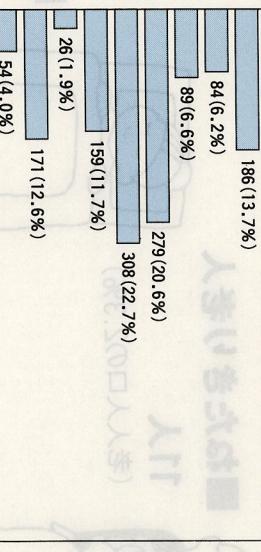
5. 自分の老後のこと  
159(11.7%)

6. 家族のこと  
26(1.9%)

7. その他  
171(12.6%)

8. ない  
54(4.0%)

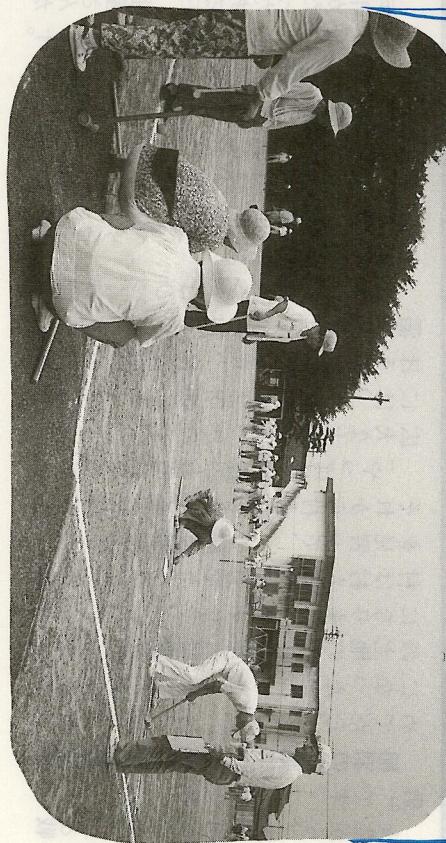
9. 無回答  
0



43.3%が「自分の健康や老後」に不安を感じている。

## 8月11日 クロッケーゴルフ大会

暑さに負けず、いきいきとしたプレーでお互い和気あいあい頑張りました。



## —五ヶ岳不協議会 合同推進大会

## 10月10日 合同推進大会

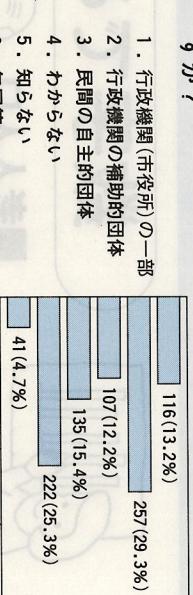
少年の主張「高齢化社会のすすむ中で」

稲羽中3年

大野由美子さん



### ●あなたは、「各務原市社会福祉協議会」という団体があることを存じですか？



社会福祉協議会(社協)は、行政機関の一部でも補助団体でもなく、「皆様の会費や協力費によって運営されている民間の自主的団体」です。正解はわずか12.3%とまだまだ認識度は低いようです。

### ●ボランティアへの参加は？

活動中あるいはぜひ参加したいという積極派は、14.3%。活動の内容によっては参加したいあるいは一緒に参加する人がいれば、参加したい、また気持ちはあるが何をしてよいかわからないが、46.8%。

# まちなか社会

VOL. 2

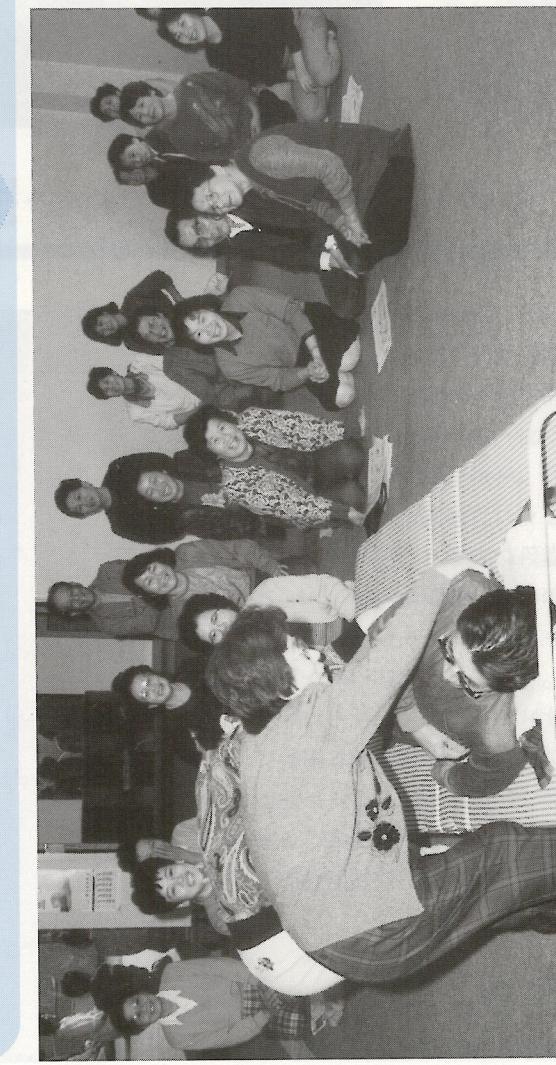
平成5年3月31日発行

各務原市社会福祉協議会

前宮支部

平野喜八郎

題字：各務原市長



介護講習会 11月7日

ねたきりのお年寄りの方を、保健婦さんや看護婦さんは、ごく簡単に、起こしたり、寝ている方向を変えられる事ができるのですが、私達慣れない者にとっては大変な事です。皆さんに集まって戴き、「からだの動かし方」を実習主体で勉強しました。三人一組のグループを作り、交代で色々な角度、向き、起き、起き方を指導して戴きました。日頃から、ねたきり老人の介護されている方々の、勞をねぎらう気持でいっぱいになりました。

私は社協との付きあいは平成の年号と一緒に歩いて四年になります。最初の一、二年は社協とは何んとかさっぱり解らず、何の関心もなく過ぎて行きました。三年目に支部社協とは、地域住民が自動的に参加・協力することによって、地域における福祉問題を解決する活動、つまり近くの者どうしが力を合せて思いやり・たすけあいの福祉の心を基調とした「温もりと安らぎのある福祉のまちづくり」をめざした活動である。という趣旨を教えられ、四年目になってようやく其の目的に向って、それらしい格好付けた感はあるが、(これでと苦笑される向きもあるでしょう)、決して充実したものとなつたわけではありません。

五年度は昨日迄歩んだ道の厳しいチェックと更によそ様のよい所を真似、特に独自の事業を取り入れて、みんなが親しみをもつて参加の出来る社協にと、スタッフ一同頑張りますのでどうご期待より、強力なるご支援をお願いする次第であります。

## 進む高齢化

昨年四月、社協の支部長を受けて一年が過ぎました。一年を振りかえってみますれば、私としては、なにもせぬ人を頼りに終ってしまいました。支部役員の皆さん方のご協力により支部活動の推進にご尽力を賜り深く感謝をしております。

お陰さまで、体育振興会の皆さんの支援に助けられた老人クロッケーゴルフ大会、運動会や映画会、また北島自治会のご協力により実施した介護講習会には、大勢の

各務原市社会福祉協議会

前宮支部長

仙石 進

方が参加され、その中で小学生の作文等も発表され、なごやかな一日がありました。

これからは高齢化が進み、かつその水準は世界よりも早く来ると言われています。また医療技術の進歩により、寝たきり老人、痴呆症の人たちが多くなると言われています。心残りはありますが、最後に皆様方のご健康とご多幸を、お祈りいたします。

## より充実を目指して

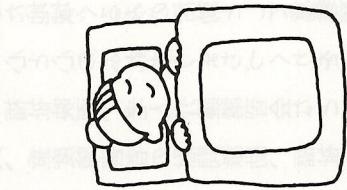
万年副生

私は社協との付きあいは平成の年号と一緒に歩いて四年になります。最初の一、二年は社協とは何んとかさっぱり解らず、何の関心もなく過ぎて行きました。三年目に支部社協とは、地域住民が自動的に参加・協力することによって、地域における福祉問題を解決する活動、つまり近くの者どうしが力を合せて思いやり・たすけあいの福祉の心を基調とした「温もりと安らぎのある福祉のまちづくり」をめざした活動である。という趣旨を教えられ、四年目になってようやく其の目的に向って、それらしい格好付けた感はあるが、(これでと苦笑される向きもあるでしょう)、決して充実したものとなつたわけではありません。

五年度は昨日迄歩んだ道の厳しいチェックと更によそ様のよい所を真似、特に独自の事業を取り入れて、みんなが親しみをもつて参加の出来る社協にと、スタッフ一同頑張りますのでどうご期待より、強力なるご支援をお願いする次第であります。

## 数字で見る前宮

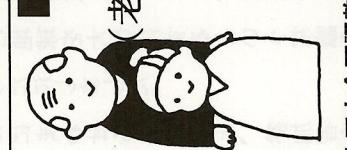
■世帯数



1,072世帯

■ねたきり老人

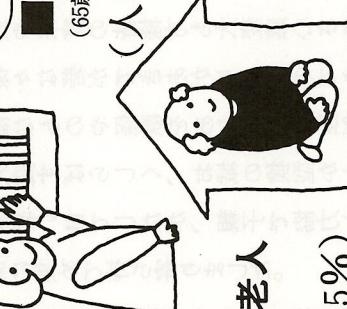
(65歳以上) 13人



(老人人口の2.4%)

■人口

4,276人  
(男2,090人)  
(女2,186人)



(人口の12.8%)

■1人暮らし老人

12人  
(老人人口の2.5%)

(資料提供：各務原市企画調整課／福祉課 H4.10.1)

